

研修会のしおり

令和5年度

第12回コミュニティ・スクール研修会 in 木島平

テーマ

ふるさと木島平を担う子どもたちを、地域ぐるみで育てよう！



日時 令和5年7月29日(土) 9:00~12:35

会場 木島平村 若者センター研修室

主催 木島平村教育委員会

主管 木島平村学校運営協議会

I 日程&内容

I 開会行事	9:00~
II 研修	
○第1部 実践発表(各10~15分)	9:10~
① 地域連携コーディネーター	
・中学校、高校との地域連携コーディネーターの取組	
② 下高井農林高校	
・「文化遺跡再整備事業」(御霊山戦争遺跡)	
・「郷土民話継承事業」(楡切り物語他)	
・「スプリングキャンプ事業」	
③ 木島平中学校	
・「木島平の木と私たちの生活」	
○第2部 熟議	10:00~
テーマ 『「ふるさと木島平を担う」とは何か?』	
○第3部 総評(研修会のまとめ)	12:00~
・小国 喜弘さん 東京大学大学院教授	
・岸 裕司さん スクール・コミュニティ研究会代表	
・高木 清一さん ふるさと応援団木島平会会長	
III 閉会行事	12:30~

II 研修

【第1部 実践発表】



【第2部 熟議】

テーマ『「ふるさと木島平を担う」とは何か?』

〈 熟議 〉

◆多くの当事者が「熟慮」と「議論」を重ねながら、課題解決・政策形成をしていくことです。

具体的には、

- ① 多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
- ② 課題について学習・熟慮し、議論することにより、
- ③ 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④ 解決策が洗練され、
- ⑤ 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、

という話し合いのプロセスのことです。

熟議5カ条（参加者の心構え）

- ① 他の人の発言をよく聴きましょう。（聞く7割、話す3割くらいの気持ちで）
- ② 発言は簡潔に分かりやすく伝えましょう。（結論を先に）
- ③ 人を傷つけない発言に心がけましょう。
- ④ 共感や感想、自分の考えが変わったことなどを伝えましょう。
- ⑤ 一回の発言で言いたいことは一つだけ。

◇熟議を進めましょう。 ※ファシリテーター（進行役）が推進役です。

内 容		時間
事前説明	① 今日のテーマ発表 「ふるさと木島平を担う」とは何か？ ② 心構え、付箋紙の使い方 等	5分
熟 議	◇ 各グループのファシリテーターによる進行（自己紹介を含む） ・記録係を決める（振り返りのときにグループを代表して発表する） ① まず、テーマを確認する。 「私が感じている ふるさとの“よさ”と“課題”」を、以下の視点を手掛かりに、付箋紙（黄色）にできるだけたくさん書く（1項目1枚、名前を記入） 〈ふるさとの“よさ”と“課題”〉 ・人とのかかわりのよさ ・自然・景観のよさ ・伝統文化のよさ ・行政の取組みのよさ 等々 ・少子高齢化 ・観光事業 ・村の産業 ・福祉・教育・商業 等々	20分
よさ 課題 ↓ 意見交換 ↓ テーマ 焦点化 ↓ 取組 具体 ↓ 発表	② 1人ずつ、記入した付箋紙を簡単なコメントを加えて、模造紙枚に“よさと課題”別々に分けて貼っていく。 ・1人1枚ずつ書いた内容を語りながら黄色の付箋紙を順番に貼っていく。 ・内容が以ていたり、関連があったりする付箋紙は近くに貼り、まとまりをつくる。	20分
	③ ピンクの付箋紙に、よさ・課題に、どう向き合っていくか、自分の考えや想いを付箋に書く。（付箋には名前を記入） ・可能であれば、ここでは以下の視点にも触れられるとよい。 〈ふるさとのよさと課題に、どのように向き合っていくか〉 ⇒ どのように向き合うことが必要か（どんな取組が必要か）	10分
	④ ②同様、1人ずつ、ピンクの付箋紙に記入した付箋紙を簡単なコメントを加えて、模造紙に貼っていく。 ・黄色の付箋紙も含め、関連する付箋紙は近くに貼り、徐々にカテゴリーを作っていく。 ・付箋を貼った模造紙をグループで眺めて整理する。 ・同様の内容ごとに付箋紙の島をつくる。 ・島の付箋紙にタイトルをつける。	15分
	⑤ 模造紙全体を眺め、グループで話し合われたことについての「タイトル」をつける。	5分
	⑥ できたグループ毎に、まとめを記した画用紙をパネルに貼る。	
振り返り	⑦ 各グループの記録係が発表する。	20分

Ⅱ 総評

小国 喜弘 さん 東京大学大学院教育学研究科教授 専攻は日本の教育実践史
早稲田大学教授のときから、木島平村へは15年目

岸 裕司 さん スクール・コミュニティ研究会（SC研）代表
木島平村へは12年目

高木 清一 さん ふるさと応援団木島平会会長
木島平村山口出身